

金網柵(亀甲金網)の設置手順

準備物

- ①巻き尺 ②水系 ③クリッパー ④ペンチ ⑤支柱打ち込み器
- ⑥六角レンチ、電動ドリル(充電式) ⑦ハンマー ⑧ゴミ入れ ⑨革手袋

一、支柱の設置



- 距離を測定し、支柱を2.5mおきに配置(距離は、亀甲金網のスパンの倍数)



- 支柱を打ち込む(約80cm)(支柱についている最下部の穴が地面から約5cm)
- 水系を張り、支柱についている中間の穴の高さを揃える
- 支柱についている穴(上部と下部)に留め具を設置

二、補助支柱の設置



- 補助支柱と支柱の角度が約45°になるように調整
- 補助支柱を支柱に仮留め
- 補助支柱を打ち込む
- ボルトを固定
- 補助支柱はそれぞれ個別に固定金具で固定



- 傾斜の変化点、変曲点、ゲート、柵の始点・終点には、補助支柱が必要
- 金網の設置をイメージし、補助支柱が、金網の設置の邪魔にならないように、金網の設置ラインの外側に設置

三、上張り用ワイヤーの設置



- 上張り用ワイヤーが、絡まったりキंकしないように、注意しながら繰り出す。
(専用の器具を使用しない場合、ワイヤーを繰り出す人が必要)

- ワイヤーを支柱の穴にとおし折り返す
- 金具は4つで固定
- 金具のナットは上に向けて固定



- 支柱の留め具の上にワイヤーを通して仮留め。
(まだ固定はしない。)

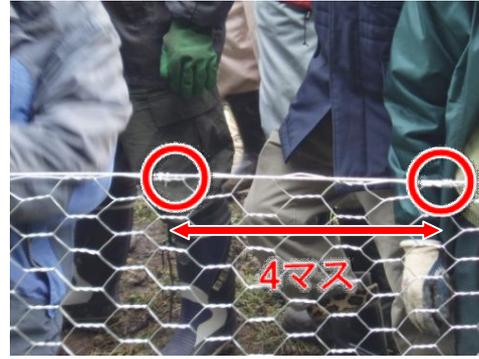
- ワイヤーに緊張具を取り付け、テンションをかける。
注: 写真は既に網が設置されているが、網を設置する前に緊張具を取り付けてテンションをかける

四、金網の設置



- 金網を拡げ、支柱の留め具に、上から引っかけて、留め具を固定

五、金網の固定



- 上張り用のワイヤーと金網を、金属線で固定（4マスごとに固定）
注：鉄線やメッキのうすい鉄線はしようしないで、附属の金属線を使用すること

六、始点・終点の処理



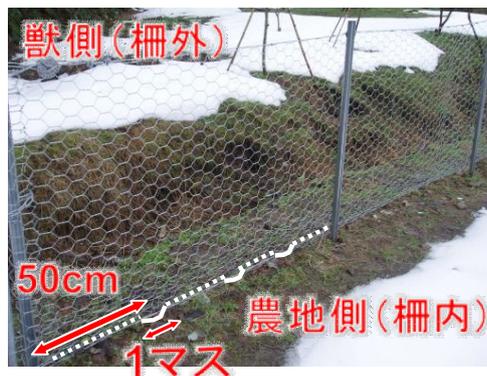
- 金網の内側と外側に人が必要になる。
- 支柱を巻き込みながら亀甲金網を折り返し、3マス以上重ねる（亀甲のマス目が合うように重ね合わせると、縫い合わせやすくなる）
- 重なった金網を、金属線で編み込んでいく（縫い合わせ方は 下図参照）

七、金網同士の接合



- 金網の内側と外側に人が必要になる。
- 金網を3マス以上重ね合わせる。（亀甲のマス目が合うように重ね合わせると、縫い合わせやすくなる）
- マス目ひとつずつ、金属線をとおして編み込んでいく。（附属の金属線（コイル状）を適度に伸ばし、回しながら亀甲のマス目に通すと編み込みやすい）
- 上張り線に金属線を巻き付け固定する。
- 金属線を下に引っ張り、下部金網最下部に固定する

八、下張り線(強張力線)の設置



- 強張力線が、絡まったり、キンクしないように、注意しながら繰り出す。
- 金網のマス目とおとして、縫い込む。
(獣側に約50cm、農地側に1マス、という具合に、とおしていく)
- 下張り用の強張力線を支柱に巻き付け固定



- 留め具の下に、強張力線を通す
- 強張力線に緊張具を取り付け、テンションをかける
- 留め具のボルトをしめて固定する。
(強くしめると、強張力線に傷がつき、強度が下がるので注意)

九、金網の支柱への固定 十、アンカーの設置



- 留め具を使用して固定
もしくは、
- 支柱の中間にある穴に金属線をとおり、金網柵と固定

- 亀甲金網の最下部付近をアンカーで固定する。

注: 強張力線には打ち込まない
注: 誤って金網を叩いてしまうと強度がさがるので注意